

次期「北海道観光のくにづくり行動計画」素案の概要（検討）

第1 計画の考え方

- ・ 策定趣旨：北海道観光のくにづくり条例に基づき、施策を総合的、計画的に推進するための基本的な計画
- ・ 位置づけ：北海道総合計画に沿って策定、推進する「特定分野別計画」
- ・ 計画期間：令和8(2026)年度～令和12(2030)年度

第2 北海道観光を取り巻く情勢と現状・課題

◆北海道観光の現況

○観光入込客数（実人数）

- ・ R6年度は4,964万人で、コロナ禍から回復傾向。
- ・ その中で外国人客は大きく伸張し、R6年度は過去2番目の水準。

○宿泊客延数

- ・ R6年度はコロナ前を上回り過去最高となったが、道央圏に集中（62%）。
- ・ 四半期で比較すると、インバウンドの拡大により、第4四半期が大きく底上げ。第1（4～6月）、第3四半期（10～12月）の誘客が課題。
- ・ 外国人客の国・地域別ではアジアが8割以上を占めており、中でも東アジア（1 韓国、2 台湾、3 中国）が特に多い。

○顕在化している様々な課題

- ・ 一部の地域では、過度の混雑やルール・マナー違反などの問題が顕在化。

◆北海道観光の課題と対応状況

- ・ 地域偏在・季節偏在といった構造的な課題に加え、人手不足、交通の利便性、過度な混雑やルール・マナー違反等の諸課題への対応、危機対応に直面しており、課題の解決のため、これまでの取組に加え宿泊税も活用し、裾野が広く地域経済を支える観光関連産業の持続的な発展に向け、取り組んでいくことが必要。

第3 北海道観光のめざす姿と施策展開の方向性

◆めざす姿

○めざす姿を掲げる考え方

- ・ 地域や季節の特性を最大限に発揮したインバウンド需要の取込や道民の地域への愛着や誇りの醸成、旅行促進に加え、旅行者・観光業従事者、地域住民それぞれの満足度向上と相互理解を深めていくことが鍵。
- ・ 北海道観光の飛躍と持続的な発展を確かなものにし、日本そしてアジアを代表する特別な観光地として世界から選ばれる「観光立国北海道」の実現。

地域偏在や季節偏在といった構造的な課題の対応・解決による北海道観光の潜在力の発揮

旅行者、観光業従事者、地域住民それぞれの満足度向上

めざす姿
観光審議会計画部会の議論を踏まえ検討

観光を通じた消費額の拡大による地域経済を支える観光関連産業の持続的な発展

◆施策展開の方向性

- ・めざす姿の実現および重点目標の達成に向け、以下の5つの柱のもとで、それぞれの施策を総動員し、有機的に連携しながら推進

施策の柱	項目	展開の方向性
(1)観光コンテンツ	①観光マーケティングの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・データを活用した観光客の動態・消費の動向調査 ・地域の戦略策定と評価の仕組み構築の支援 など
	②高付加価値化の追求	<ul style="list-style-type: none"> ・自然、食、歴史・文化・暮らしなどコンテンツの磨き上げ ・アウトドア・サイクリング・ガストロノミーなど多様なツーリズムの展開 ・アドベンチャートラベルの推進 ・広域周遊ルート整備など広域滞在エリアの形成 など
(2)観光サービス基盤	①DXの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・自動チェックイン機や翻訳機導入など宿泊・観光施設のDX推進
	②受入環境の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサル対応（施設設備のバリアフリー等） ・快適な観光地づくり（手ぶら観光や観光地美化等） など
(3)観光インフラ	①人材の育成・確保	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹的な観光人材の育成・確保 ・将来の観光を担う人材の養成 など
	②移動利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・空港機能の強化と地方航空路線の充実 ・鉄道の地方路線維持と二次交通の充実 ・交通機関のシームレス化 など
	③新たな観光客の取込方策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・「北海道らしいIRコンセプト」構築に向けた検討推進
(4)安全・安心と共生	①災害時の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・災害・気象情報の多言語情報発信、緊急時の対応マニュアル整備や施設におけるスタッフ教育 など
	②危機対応力の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・正確な情報発信など風評被害対策の迅速な実施 ・安全が確認された地域への訪問意欲の喚起策 など
	③顕在化している諸課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑分散に向けた観光資源の多様化 ・ルール・マナーの多言語による発信 ・アウトドア活動等に係る安全に関する情報提供の強化 ・無許可営業の是正等健全な事業運営の確保 など
(5)誘客活動と情報発信	①戦略的なプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・四季折々の魅力や地域ごとの特色を活かした道民の旅行意欲の喚起 ・多様なニーズに対応した観光コンテンツを活かした誘客活動 ・国・地域などターゲットを絞り込んだプロモーションなど
	②効果的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルメディアを活用した幅広い層への情報発信など

◆目標指標

○K G I（重要目標達成指標）

指標項目	算出方法など		現状値 (2024年度)	目標値 (2030年度)
観光消費額	観光消費額単価× 観光入込客数		15,031 億円	億円
観光消費額単価	道内客	日帰り	6,361 円	円
		宿泊	34,331 円	円
	道外客	宿泊	96,114 円	円
	外国人客		171,954 円	円
観光入込客数	道内客	日帰り	3,364 万人	万人
		宿泊	790 万人	万人
	道外客	宿泊	516 万人	万人
	外国人客		283 万人	万人
宿泊客延数(全体)	国内客(道内・道外) +外国人客		4,045 万人泊	万人泊
道央圏以外の 宿泊客延数	道南+道北+道東		1,548 万人泊	万人泊
四半期毎の 宿泊客延数	第一四半期		825 万人泊	万人泊 以上
	第三四半期		959 万人泊	
旅行者満足度	「とても満足」の回答割合		45.7 %	%
観光業従事者の 満足度	観光業界での継続就労意向 「とてもそう思う」の割合		— %	%
住民の観光に対する 受け止め	居住地満足度	ランクA・B (とても満足・ 満足)の割合	73.2 %	%
	社会的満足度		33.0 %	%
	経済的満足度		52.2 %	%

観光審議会計画部会の議論などを踏まえて検討

※その他、次のK P I（重要業績評価指標）も設定

旅行者の種々満足度、アウトドア・ATガイド数、道内空港利用者数、地方空港利用
来道率、北海道新幹線の利用者数、クルーズ船の寄港回数、国際会議等の開催件数

第4 計画の推進

◆関係者の行動指針と役割

- ・道民、観光事業者・団体、観光関連団体、北海道観光機構、行政機関、教育機関の行動指針と役割を規定

◆計画の推進体制

- ・各振興局を中心とした地方推進本部を計画推進の基本とし、全庁横断的な推進本部と一体的に推進し、実効性を確保

◆計画の推進管理

- ・毎年度、各振興局で目標指標や施策の推進状況をとりとまとめ、関係者間で共有の上、本道全体の推進状況を分析、対応方向を整理し公表するとともに、計画の進捗や情勢の変化なども踏まえ点検・評価を行い、必要に応じて見直し